タ イ ト ル）入所から入院となった利用者の検討
～肺炎球菌ワクチン接種導入までの取り組み～
施　設　名）介護老人保健施設　プライムヘルシータウン湘南
発　表　者）碁石一枝
共同研究者）柴田ひと美・長沼雄二
抄 録 要 旨）平成２１年度における、当施設から病院へ入院した利用者の状況とその原因について考察し、肺炎球菌ワクチン接種を開始するまでの取り組みとその経過について報告する。
抄　　録）

１、目的

利用者の事故・病気による突然の入院は、利用者本人のその後のＡＤＬや健康に大きな影響を及ぼすばかりではなく、施設においても予定外の空床を招き経営上問題となっている。そこで当施設から事故・病気等で入院した利用者（以下「入院者」とする）の実態調査を行い、その原因や対策について検討した。

２、方法

平成２１年度の入院者について、入院時期・原因疾患・転機・介護度などの調査を行った。

３、結果

平成２１年度の退所者は５４名。そのうち３６名が入院者であり、退所者の２／３を占めていた。

［入院時期］

入院者を月別に見ると、季節の変わり目（春先・秋～冬）に多くの入院者が見られた。

［原因疾患］

入院となった原因疾患は、心不全（６名）・肺炎（４名）・摂食障害の為の胃ろう造設（４名）が多く見られていた。

［転機］

入院後、入院先での死亡が確認された者は１２名で、原因疾患は心不全（５名）・肺炎（３名）・ガン（３名）であった。

［介護度］

入院者の平均介護度は３．２２であり、施設全体の平均介護度３．２０をわずかに上回る程度であった。

４、考察

平成２１年度の退所者全体の中での比率をみると、入院による緊急退所者は、在宅・他施設への予定退所者に比べ、約２倍であり、退所者総数の２/３を占めた。

緊急退所の原因疾患として、心不全や肺炎が多く見られ、また、季節の変わり目（春と秋）は、入院者が増加傾向にある為、この季節は特に体調管理に留意する必要があると考えた。

したがって、入院者を減少させる対策としては、これらの疾患の予防が大切であるが、その為には心疾患、腎疾患、糖尿病などの基礎疾患のコントロールを行なうとともに、特に心

不全は感染症によって増悪する事が多いことから、肺炎及びそれにつながる呼吸器感染症の予防が最も重要であると考えられる。

入院者の介護度は入院者全体の介護度と大きく変らない結果から、入院の有無は介護度よりやはり基礎疾患や感染症の有無との関係があると考える。

５、結論

平成２１年度の当施設での事故・病気などで入院した利用者（入院者）の検討から入院者の２/３は原因疾患として心不全、肺炎である為、ハイリスク者の管理と肺炎の予防が最も重要であると思われた。

６、ワクチン接種導入に至るまで

これらの状況をふまえて、当施設において今年度より、感染対策員会を中心に肺炎球菌ワクチンの予防接種推奨を開始した。当施設の感染対策員会では、感染症サーベイランス、施設内感染対策、職員教育などを行なっているが、その委員会内で、平成２２年４月にワクチン接種についての情報収集の他、家族への周知方法・費用などを検討し、５月には施設内に啓蒙用ポスターの掲示をした。また、並行してスタッフへの周知や勉強会の開催を行った。６月上旬に家族へワクチンに関する説明文・同意書を郵送して周知したが、わずか１週間で２４名の接種希望者があり、その後５０名まで希望者が集まった。ワクチン接種は６月２４日より開始し現在も進行中であるが、今のところは大きな副反応は見られていない。